

Novell eDirectoryで4,500人の ユーザーIDを一元管理 一層のセキュリティ強化を実現



www.novell.com

SUCCESS STORY

TIS株式会社は2003年12月、Novell® eDirectory™とNovell Nsure Identity Managerを核とする社員認証システムを構築した。約2,000人のパートナー企業からの出向社員や派遣社員を抱える同社は、オフィスに入るための入館証やネットワークID、グループウェアIDなどを別々のシステムで管理していた。さらに正社員約2,500名の人事情報は、情報系システムとは連動させずに基幹システム内だけで管理しており、退職者のユーザーIDのメンテナンスを課題としていた。eDirectoryを通じ、これらのユーザー情報を外部のPKI認証基盤やID申請システムと連携させることで、一連の申請処理が自動化されただけでなく、IDメンテナンスにかかる工数を大幅に削減し、あわせてセキュリティの強化も実現している。

導入の経緯

IT業界ナンバーワンの 認証システムを構築せよ

TIS株式会社は「人と社会に最適を」という基本理念の下、1971年に創立され、現在、ソフトウェア開発・アウトソーシングサービス・ソリューションサービスの3つを柱に、お客様企業のビジネスを活性化させるシステム開発を手がけている。

同社の特徴は、「自社内で実際にソリューション構築し、評価した上でお客様に提案する」という姿勢であり、そのソリューションの効果を実際に現場で体験してからお客様企業に提案する。この真摯な取り組みが、今日のTISの礎となっている。

今回構築した認証システムもその1つ。「IT業界の中で最も優れたセキュリティ基盤を導入せよ」という号令の下で、2003年12月にPKIによる社員認証システムを開発した。このシステムの核となるアカウント統合管理を実現したのがノベルの「Novell eDirectory」と「Novell Nsure Identity Manager」(旧製品名DirXML)だ。



TIS株式会社
グループサービスセンター
システムグループ
主査 工藤雅生氏

「当社の業務の性格上、社内には外部の開発協力会社の方や派遣の方が頻繁に出入りします。その方々には社員と同じようにビルへの入館証や社内ネットワークへのアクセス権限も付与しているのですが、プロジェクトごとの契約の場合、数カ月

単位でユーザーIDを追加・削除しますので、セキュリティ上、アカウントのメンテナンスは必須です。そこで、ユーザーIDの一元管理はもちろん、容易にIDを追加・削除できる認証システムが必要だったのです」と、工藤雅生氏は説明する。

導入前のねらい

全4,500名のユーザーID管理作業の 低減を目指す

魏成涛氏は「基幹の人事システムと、ID管理用システムがバラバラだったため、入社・退職情報やデータの追加・削除は個別に実行する必要がありました。半期に一度、入退社情報を一斉に整理する必要があったほどです」という。一度の棚卸しで多くの入社・退職者情報が確認され、入社・退職者ごとにネットワークやグループウェア用のID、パスワードを1つ1つ追加・削除する必要があった。「仮にこの作業を怠ると、セキュリティ上、問題があることが考えられましたが、当時は入社・退職者情報をスムーズに吸い上げ、管理するための仕組みがありませんでした」(魏氏)

そこで想定したのが、ユーザーIDディレクトリとPKI認証基盤を組み合わせた社員認証システムだ。ディレクトリには、入社・退職情報や新しいIDの申請情報をすべて集約する。その上で認証基盤やイントラネット/グループウェアなどと連携させることで、IDの追加・削除を容易にしようという試みだ。

対象製品

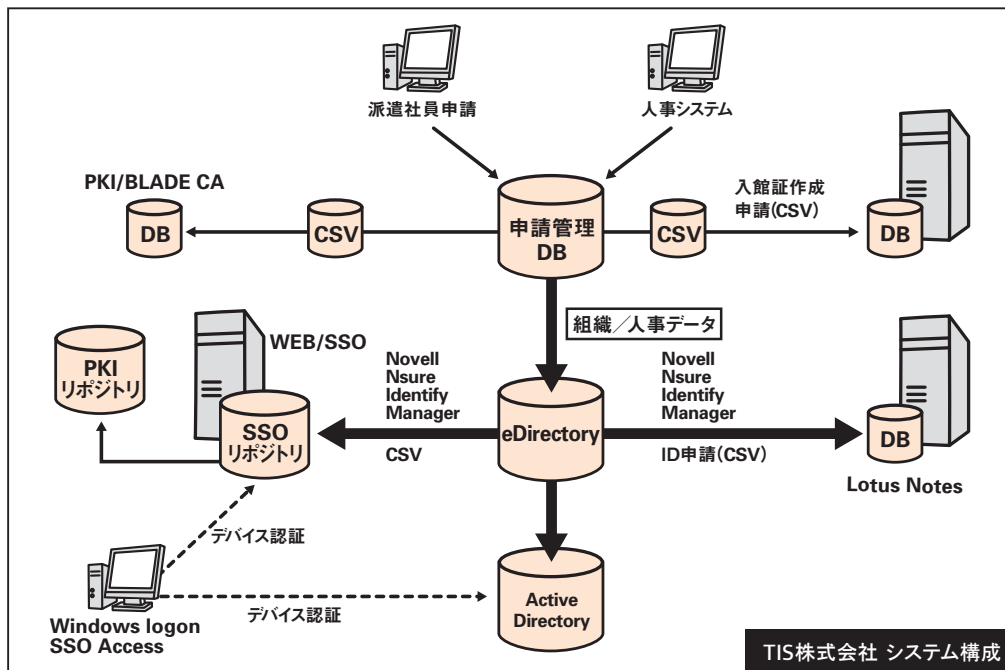
Novell eDirectory
Novell Nsure Identity Manager

TIS株式会社

本社：東京都港区海岸1丁目14番5号
設立：昭和46年(1971年)4月28日
資本金：230億4,600万円
(平成16年3月31日現在)
従業員数：2,560名(平成16年3月31日現在)
売上高：1,694億2,900万円
(平成16年度3月期連結実績)
URL：<http://www.tis.co.jp/>

概要：2001年に東洋情報システムからTISに社名変更、「すべてのステークホルダーとの価値交換性を高める」という理念の下、お客様企業とともに理解し合える価値を創造・共有するために、顧客企業の要望を深く汲み取ったシステムインテグレーション事業を展開している。

Novell.



評価ポイント

拡張性と連携のしやすさが採用の理由

こうしたニーズにより、2003年7月から9月にかけて、eDirectoryとNovell Nsure Identity Managerを核にした認証システムを構築した。しかしeDirectoryに関していえば、このとき初めて導入されたわけではない。工藤氏は「2000年に社内システムユーザーを一元管理するために、ディレクトリ製品の導入を検討したのがeDirectoryとの出会いでした」と語る。「当時、ActiveDirectoryなど、ほかのディレクトリ製品も検討したのですが、機能性や拡張性の面で圧倒的にeDirectoryが勝っていました。こうした理由から導入したのですが、正直に言えば使いこなせていなかったというのが実情です。今回新たに社内認証基盤を整備する際、『既存資産を有効活用して、さらにいい仕組みを作ろう』ということで、eDirectoryに白羽の矢が立ったのです」(工藤氏)

システムの全体像は次のとおり(図参照)。人事システムからのユーザーIDや、派遣社員用のID申請システムの情報を吸い上げ、「申請管理データベース」が申請にまつわる情報を一元管理する。ここから認証システムと入館証申請システムに、ID情報をCSVフォーマットで渡す。さらに申請管理データベース内にある組織・人事情報を、中央にあるメタ・ディレクトリ(eDirectory)が吸い上げ、Notesやシングルサインオン(SSO)リポジトリにCSVフォーマットで送る。これにより、一度社内ネットワークに入れば、Notesやほかの主要アプリケーションにも自



TIS株式会社
グループサービスセンター
システムグループ
魏成清氏

動的にログインできる。

eDirectoryはユーザーIDを一元管理し、LDAPを通じてほかのアプリケーションや認証システムへの連携が可能だ。仮に接続先システムがLDAPに未対応でも、Novell Nsure Identity Managerを使えば様々なデータベースやアプリケーションと連携できる。拡張性や連携のしやすさといった点で、eDirectoryの有効活用とNovell Nsure Identity Managerの新規導入が決定された。

導入効果と今後の展開

Notes、Windows、入館証、PKI認証基盤など、複数システムの多大なアカウント管理工数を削減、8,000名の認証基盤として拡張を続ける

結果として「PKIによる強固なセキュリティを構築できました」と、工藤氏は言う。特に管理者の負荷が大幅に削減されている。退職者のIDを削除すれば、自動的に入館証やネットワークIDにも反映されるシステムは、「Notes、Windows、入館証、PKI認証基盤など、複数システムのアカウント管理に費やされていた多大な工数を削減しながら、より強固なアクセスコントロールを達成できました。これからは、関連会社を含めたグループ全体のセキュリティ基盤として、より一層の拡張を目指したいと思います」(工藤氏)

現在、関連会社を含めたTISグループ全体では約8,000人が勤務している。今後、この8,000名の認証基盤としてシステムの拡張を図り、機能面でもさらに充実させていく構えだ。

注) PKI認証基盤はエヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社BLADEを使用

ノベル・ニューズレター

電子メールによってノベル製品の最新情報やイベント情報、導入事例など、よりよい情報をどこよりも早く無料でお届けするノベルの情報サービスです。購読のお申し込みは、下記Webサイトでご案内しております。

www.novell.co.jp/nnl.htm

ノベルホームページ

ノベルの最新情報を下記URLにて提供しています。

www.novell.co.jp/

ノベルインフォメーションセンター

製品情報に関するお問い合わせ先。

www.novell.co.jp/nicweb/

Novell

ノベル株式会社

〒141-8551 東京都品川区西五反田3-6-21
住友不動産西五反田ビル